

会 議 録

| | |
|----------|--|
| 会議名 | 令和6年度 第2回館山市文化財保存活用地域計画作成協議会 |
| 開催日時 | 令和6年11月6日(水) 午後1時30分から午後3時5分 |
| 開催場所 | 菜の花ホール 第1・第2集会室 |
| 出席者 | 館山市文化財保存活用地域計画作成協議会委員 10名 (菅根会長、池田副会長、青木委員、矢尾委員、小倉委員、黒川委員、杉江委員、山川委員、内堀委員) 千葉県教育庁教育振興部文化財課指定文化財班 黒沢班長(四柳委員の代理出席) 館山市教育委員会 5名 (石井教育長、三浦教育部長、池田文化財係長、水島、岡田) |
| 公開・非公開の別 | 公開 |
| 傍聴者 | 0名 |

| 発言者 | 発言内容(●委員 ○事務局) |
|-------------|--|
| 池田 | 1. 開会(資料確認) |
| 石井教育長 | 2. 教育長あいさつ |
| | 3. 議題・説明事項(菅根会長進行) |
| 池田 黒沢班長 | (1) アンケートの結果について(資料により説明) ●アンケート結果の中には想定内のものも多いかと思うが、花火大会やなのはな体操以外で意外だった回答はあるか。 |
| 池田 | ○様々な意見があることは想定していたため、想定外の回答は少なかったが、「X JAPAN」は想定外の結果だった。地域の特徴のあるものとしてはあてはまるが、文化財や歴史のイメージとなると予想外な結果となった。ほかには「さかなクン」が挙げられる。これらは文化財よりも館山をイメージすると思いつかぶもので書かれたものだと考えている。 |
| 菅根会長 | ●千葉市の場合でも文化財として Zozo マリンスタジアムなどが挙げられた。そのような意外なものが結果として出てくることはアンケートの良いところである。市民が文化財としてできるだけ広い範囲で考えている指標になる。 |
| 菅根会長 池田 | ●アンケートは Web と手書きのどちらの回答が多かったか。 ○Web での回答が多かった。 |
| 池田副会長 池田 | ●紙のアンケートはどこに配ったのか。 ○市役所本庁舎、コミュニティセンター、博物館本館で配布した。ほかには、公民館で行う歴史系や文化財系の講座の参加者に配りその場で回答してもらった。 |
| 菅根会長 | ●アンケートの周知は HP を活用したのか。 |

| | |
|------------|---|
| 池田 | ○市 HP にアンケート専用フォームのリンクを貼った。ほかにも広報紙に見開きの特集ページでアンケートに誘導する QR コードを掲載した。 |
| 池田 菅根会長 | (2) 地域計画の構成について (資料により説明) ●各章に保存と活用に関することを記載するのか。それとも保存と活用を分けて記載するのか。 |
| 池田 | ○まだ具体的に保存と活用に関する課題・方針・措置までは考えていないが、具体的な文化財の名称を示して書くことになる。そのため、文化財によって書き方は異なるが基本は保存と活用の両方を記載する。 |
| 黒沢班長 | ●保存と活用ははっきりと切り分けることはできない。保存と活用の両方に対応する事業も出てくると思う。文章や表などで分けるなどの対応はとらないと思われる。議題になっている地域計画の構成について文化庁が指針を定めているが、事務局の方でしっかり読み込んでいるため非常にわかりやすく、どのような目的で各章が設定されているのか説明されていたため理解ができた。 |
| 菅根会長 | ●これからページ数も変わるかと思うが、できるだけコンパクトにという方針があると思うがなかなかそのようにはいかないと思う。 |
| 池田 黒川委員 | (3) 歴史文化の特性について (資料により説明) ●現在企画課では総合計画を作成している。その関連で聞きたいことがある。6章で文化財の保存と活用に関する課題と方針を挙げ、7章でそれに対する措置を記載し、8章と9章でも関連文化財群と文化財保存活用区域でそれぞれの課題・方針・措置を作っていくとのことだが、それに対して具体的な動きを章立てで記載するのか。 |
| 池田 | ○6章と7章で館山市の文化財の保存・活用・措置の全体像を示すことになると考えている。特にその中で歴史文化の特性を表すような関連文化財群を複数設定し、具体的にどのように保存活用するのか、どのように環境整備をして打ち出していくのかを記載することになるのが8章になる。総合計画では各課で行う全ての事業が載っているが、その中でも重点事業として市として特に力を入れて取り組む事業についてはわかりやすく記載していると思われる。関連文化財群に関しても、文化財全体の中で特にストーリーを使って特徴を出し活用を示していくことになる。 |
| 菅根会長 池田 | ●その具体的な内容についてはまだ先になるのか。 ○保存活用区域についてはまだ具体的なイメージはできないが、関連文化財群の考え方につながる歴史文化の特性については、資料の14頁と15頁で8つのストーリーを記載した。このストーリーとこれに関連する文化財を挙げて、それらをどのように保存活用していくか記載することになると思う。 |

| | |
|-----------------------------|---|
| <p>矢尾委員 池田 矢尾委員</p> | <p>● 8頁の事務局案のタイトルは仮のものか。 ○ 仮のものである。</p> <p>● ショルダーとタイトルがほぼ同じようなことを言っている。多様なテーマが分散してどうしても一本のイメージがつきづらい。文化財においてもそうだとすると、コミュニケーションが課題になると考えている。館山はこんな文化・歴史のまち、こんな魅力があるといったときにどうしても多様性が背景にあることでなかなか一つのイメージを作れないところがいつも気になっている。文化財においても何か方向性がもう少し示せればよいのではないか。ただ、逆に絞ってしまうとその後の対応の切り口が薄れてしまうこともある。このことについてはまだわからないが、現段階で気になったため言及した。こことテーマの関連性を意識するのが良いと思う。</p> |
| <p>池田</p> | <p>○ 指摘はまさにその通りだと思う。多様なイメージはあるが、一つに絞って館山市の歴史文化の特性をわかりやすく伝えるとなると、各時代や各地域に共通して言えることとしては海を通じて様々な地域と交流してきたということになる。そのため、「海」が外せないことの認識がずれることはないと考えている。それをどういう風に伝えていくかについてはアドバイスをいただきながら、館山の海の特性、歴史が海を通じて発展してきたということを、館山を知らない人に一言で伝わるようにしたい。</p> |
| <p>矢尾委員</p> | <p>● 「海」は重要な柱になると考えている。そこからどのように伝えていくか。銚子のように海の影響をかなり受けている市町村はあると思う。その中で館山は海の影響をどのように受けたのかを提示できれば良いと思う。</p> |
| <p>池田</p> | <p>○ 三方を海に囲まれていることと東京や鎌倉に近いということは館山の特徴と考えている。ほかにも内湾と外湾を持つことも特徴だと考えている。そこはなかなか一言では表せられないが、それが地域的な特性として伝わるようになれば良いと考えている。</p> |
| <p>菅根会長 池田</p> | <p>● 8頁の歴史文化の特性を構成する視点が6つあるが、「海越しの眺望」とはどのような意味か。 ○ 現在の観光的な館山市の立ち位置もそうだが、特に江戸時代から現代まで館山市の地図や観光案内、パンフレットには必ずといっていいほど海越しの富士山が描かれている。富士講や富士塚といった富士山の信仰も盛んである。浅間信仰もある。海越しに大きな富士山が見えることは歴史的にも市民やこの地域の人々のアイデンティティとして今につながっている部分がある。海越しに富士山が見えるのは、現在だけではなく歴史的な特徴でもあることから海越しの眺望を入れている。</p> |
| <p>池田副会長</p> | <p>● 先ほどの話の補足だが、特に平砂浦や布良から見ると伊豆七島の大島、利島、新島、式根島を見ることができる。見えるときは三宅島まで見ることができる。青木繁が布良から描いた絵手紙の中にもその島々の名前が書いてある。非常にそれらの島影に感動していることがわかる。冬にだけ見えるカノープスという星は南の地軸に近いため、それが上がってきた冬にしか見ることができない。そして、地軸に近</p> |

| | |
|------------|--|
| | <p>いため少ししか見ることができないが、カノープスは全国で「布良星」とも呼ばれている。布良の漁師が亡くなって魂が赤い星になったとの伝説がある。中国ではカノープスは長寿星である。そのため「眺望」は富士山だけではなく非常に重要なものになると考えられる。富士山も世界文化遺産である。富士山を描いた小説や絵画など様々なものが含まれたうえでの世界文化遺産であると考えている。この地域においても画家や文人などが多く来て富士山を描いている。また、館山ではダイヤモンド富士は5月と7月の2回見ることができるが、館山の場合は弧を描いた湾のため複数日にわたって見ることができる。このことがとても見ごたえのある景観だと自負している。</p> |
| 菅根会長 | <p>●6つの視点のため、これに文化財が紐づくというわけではなく、紐づくのは14頁の事務局案になると思われる。そのため、核となるのは14頁である。</p> |
| 池田 菅根会長 | <p>(4) 将来像・基本方針について (資料により説明) ●20頁の内容が最も大事になる。結論はいつごろまでに出せばいいのか。</p> |
| 池田 | <p>○議題(3) 歴史文化の特性と議題(4) 将来像・基本方針については次回の第3回目の協議会を踏まえて今年度中には固めたい。</p> |
| 菅根会長 | <p>●この議題が地域計画の中で最も重要なものになるか。</p> |
| 池田 | <p>○その通りである。地域計画に館山市の目指す将来像として示すことになる。</p> |
| 菅根会長 | <p>●将来像の後に基本方針があるのはわかりづらいかと思う。</p> |
| 池田 | <p>○将来像の下に3つの基本方針があり、その下に具体的な取組を記載する。</p> |
| 菅根会長 | <p>●今一つイメージしづらいが、将来像が「ふるさと館山フィールドミュージアム」という文言で良いかどうかを決めるということでもいいのか。</p> |
| 池田 | <p>○文言自体は事務局案として設定したが、なぜこのように設定したのか補足的に説明すると、歴史や文化財というものはなかなか直接生活していくうえで役に立たなかったり、文化財になじみがない人にとっては関係ないと認識されてしまう。地区ごとに特徴的な歴史があることは館山市の今の観光や景観などにも結び付いている。それを知ること、今続いているまちづくりに生きてくるし、活かすこともできる。歴史や文化財はまちづくりに活かすことができるということをもっと知ってもらいたい。文化財の枠組みを幅広くとるため、博物館に収蔵されているものや指定されている文化財だけでなく、市内にある様々な文化財や価値のあるものも意識してもらうためにフィールドミュージアムという文言を用いている。</p> |
| 池田副会長 | <p>●私たちも前回配布したテキストに「館山まるごと博物館」という名前を付けているが、そもそも「まるごと博物館」という考え方自体が1970年代にヨーロッパから提唱されたまちづくり手法である。そのため、「ふるさと館山フィールドミュージアム」は重要な枠組みに</p> |

| | |
|-------|--|
| | <p>なると理解している。しかし、「将来像」という言葉とそれが一致するかということと違うと思う。「将来像」というと市民が暮らしやすい明るい町や豊かな町といったイメージのことを将来像として呼びたくなる。それがフィールドミュージアムと一致しないように感じる。将来像と枠組みの違いを整理すると良い。エコミュージアム、まるごと博物館、フィールドミュージアムは世界中で非常に取り組まれている。日本でいうと山形県朝日町や山口県萩市が取り組んでいる。韓国では京畿道（キョンギド）が道の施策としてエコミュージアムに取り組んでいる。そのため、取組としては必要なため、テーマとしてはどこかに残すべき。しかし、それが将来像と一致するかという部分に関しては考える必要がある。</p> |
| 菅根会長 | <p>●今池田副会長からあった通りエコミュージアム運動はかつて盛んだった。対文化庁についてもこれは当たり前のことと指摘される可能性はある。将来像がフィールドミュージアムなのかということと違う文言の方が良いと思う。フィールドミュージアムは手段であって目的は別のものかもしれない。そのような気がする。再考してほしい。</p> |
| 矢尾委員 | <p>●今のことに関しては同意見である。要は目標がフィールドミュージアムというと、私のイメージとしては町の再計画やめぐりやすさなどそっちの方がゴールになる。いかにミュージアムとして町を楽しんでもらうかということが目標になるということならフィールドミュージアムが目標になってもいいと思う。今回の文化庁の事業はそこをそうしろということではないのであれば誤解を生む可能性がある。ミュージアムといいながら全然楽しめないというよりは、ルート設計や広報計画などをきちんと決めたら面白いとは思う。しかし、今やろうとしていることの目的が違うと思う。</p> |
| 池田副会長 | <p>●東京大学大学院の留学生でエコミュージアムのことで博士論文を書きに安房文化遺産フォーラムに来た人がいた。山形県朝日町、山口県萩市、館山市を博士論文を書くために回った時に、朝日町と萩市は行政が描いたエコミュージアムというプランに対して住民と温度差ができています。市や町は行政として非常にすばらしいプランを作成しているが、住民がそこについてくるのに温度差ができています。一方で館山市の場合はその逆で、戦争遺跡や稲村城跡にしても市民の保存運動がありきになっている。そこに行政が後からついてきた状況にある。その点が非常におもしろいと博士論文に書いた東大の人がいた。たまたまその人が韓国人だったため、母国の韓国で館山の事例を紹介したところ、京畿道は今でも道の施策として行っており、市民をどういう風にその気にさせ、市民が全体でまるごと博物館に取り組むかについて活動している。特に韓国の京畿道では京畿道エコミュージアムという形で進めている。安房文化遺産フォーラムとしては東京湾まるごとミュージアムという形で考えている。特に韓国の方では、館山は市民が先頭に立ちエコミュージアムをやっているところを国の機関や市民団体などが視察に来る。つまり、世界中で進めているエコミュージアムの中で、NPO 法人だけではなく、市民たちが市内の文化財</p> |

| | |
|---------------------------|--|
| | <p>について外部の人に語れるようになった時に初めてエコミュージアムといえると思う。そういう意味では目標像ということができると思う。それをただプランや都市計画的にだけ見たら面白くはないが、市民がどういう位置づけにあるかということを目標像として議論を行い、そこに行くためにはどういう風にしていったらよいのかについて地域計画の中に入れたら面白いと思う。</p> |
| <p>菅根会長</p> | <p>●後で市民の選んでくれた文化財がたくさん出てくると思うが、そういった声を反映してふるさと館山フィールドミュージアムということ盛り込んでいるのならば有効なものになると思う。確かに館山ならではのNPOのため、非常に特徴的である。非常に発信力もある。</p> |
| <p>菅根会長 池田</p> | <p>●次回の第三回目の協議会はいつになるのか。 ○次回は2月か3月あたりで開催を考えている。</p> |
| <p>菅根会長 池田</p> | <p>●そこで決定版を出さないといけないのか。 ○最終的には再来年3月までにできればいい。しかし、計画の柱となる部分のためなるべく早めに決めたい。</p> |
| <p>菅根会長 池田</p> | <p>●事務局案は一つだけではなく複数提示してほしい。複数あればこちらの方が良い、これとこれを合わせた方が良いなどの議論ができる。 ○承知した。今回の様々な意見を踏まえて複数案考えてまた提案する。</p> |
| <p>池田 菅根会長 池田</p> | <p>(5) 館山市としての文化財の定義 (資料により説明) ●21頁で挙げているのは独自のものではなく、既存のものか。 ○基本的には類型自体は文化財の類型になっているが、分類や扱う範囲としては現在作っている文化財リストに掲載しているものを掲載している。例えば、建造物だと公共施設、学校・研究施設、病院、商業施設、個人住宅はおおよそ建築後50年以上のものを対象としてリストに掲載している。石造物は扱う範囲に記載してあるものをリストに掲載している。</p> |
| <p>菅根会長 池田</p> | <p>●分類は非常に難しい。この分類に入るものとその他ということで、市民の考えている分類と対応するようにしてほしい。 ○なるべく6類型にするように文化庁から言われている。この類型に収まるものについては収めて、それが難しい場合は「その他」に入れている。「その他」のみが文化庁の類型ではない。</p> |
| <p>菅根会長 池田</p> | <p>●この分類に関して皆さんはいかがか。全部を見るのは大変だが違うと気づいた点があったら教えてほしい。 ○地名など修正しないとイケない箇所はあるが、気が付いたところがあればその都度教えてほしい。計画の中でその他で分類されている近代の別荘所有者や食文化なども含めて文化財として扱うので、文化財をほかの名称を用いて扱うのかについても意見をいただきたい。例えば館山市総合計画だと「歴史文化遺産」という名称を使っている。そのような用語を定義してこの計画で使うのか、他の自治体のものを参考にする必要はあると思うが、どういう書き方が伝わりやすいのかを</p> |

| | |
|------|--|
| 菅根会長 | <p>考えたい。</p> <p>●文化財の保存と活用の計画のため、文化財にした方がいいと考える。いろいろと入れてしまうと文化財にならなくなってしまふ。先ほどのまるごと博物館についてもそうだが、多くのものを文化財として取り上げるということが特徴になるのではないか。指定文化財を見直していくことも含めて、文化財を保存していくことをやっていくため、文化財を活用していくことは誰でもわかる。多くの範囲のものを文化財としてどうしていくかを考えるのが良いと思う。</p> |
| 黒沢班長 | <p>●「文化財」とだけにしてしまうと興味を持たない人がいる。「財」とつくると重く捉えてしまう印象がある。他の市町村でも文化財を別の名称で記載している。その他の分類を取り込むために香取市は「香取遺産」という名前をつけている。「香取遺産」は市の広報紙で紹介するページがあり、シリーズものとして掲載している。様々なテーマで書かれていた。それを使って地域計画でも広く文化財、いわゆる細かく文化財保護法で定義された文化財以外も含めたもので「香取遺産」という名前を付けている。文化財と言って狭い印象を持たれるよりも、幅広い印象をもってもらうようにした方が良い。「近代の別荘所有者」のようなものは館山ならではの視点だと思うため、そのようなものは「文化財」とイメージできないと思う。そのため、それらが含まれるよう名称を付けた方がいいと思う。総合計画で「歴史文化遺産」として幅広く文化財が取り入れられているのであれば、「歴史文化遺産」を使うのも一つの手だと思う。館山の文言を付けることも一つの手だと考えている。</p> |
| 矢尾委員 | <p>●食文化は無形民俗文化財に入ると思う。その辺はまた具体的に何が入るのかによって分類することになると思うが、そのような印象を持った。</p> |
| 池田 | <p>○なぜこの話を議題にしたのかというと、今話に上がったように、文化財のことを知っている人でも文化財＝指定文化財のことだと考えてしまう人が多い。例えば、未指定の文化財や地域にある歴史的な資料についても文化財ではないと言われてしまうことが結構ある。そのことを憂慮している。文化財か、文化財ではないかという判断を指定の有無でされてしまうとこの計画で幅広く扱いたいものでも、指定されていないため価値がないと捉えられてしまう。そのようになってしまふともったいないため、指定されていないものも含めて文化財だということを伝えたい。それが上手く伝わるようにするには、文化財という用語を使えばいいのか、それとも香取遺産のような用語を使った方が伝わりやすいかについて判断する際に、中にいると認識が一般の人と乖離が生まれてしまう。そのために意見を伺いたい。どちらかというとこの場にいる方もそれなりに文化財については認識がある方々なので場としてふさわしくないかもしれないが。ちなみに、総合計画の中では「歴史文化遺産」は特に定義していないで文化財という言葉で「歴史文化遺産」と置き換えて使っている。博物館の収蔵資料や指定文化財についても広く歴史文化遺産と捉えて記載している。</p> |

| | |
|-----------------|---|
| 菅根会長 池田 | ●どちらかにしないといけないのか。文化財か文化財ではないのか。 ○もし、文化財以外の用語を用いるのであれば、どういう意図で設定しているのか定義して使う必要がある。 |
| 池田副会長 池田 | ●そのことを視野に入れながら話し合いの中で考えていくということ でいいのか。 ○その通りである。この場で結論が出るとは考えていない。事務局側 として問題意識として持っているので今後協議会の中やそれぞれの 会話の中でヒントになることがあればご教示いただきたい。 |
| 池田副会長 | ●文化財といってしまうとどうしても狭い印象になってしまう。とり あえず、歴史文化遺産と仮にそういう方向で進んでいってもいいと思 う。例えば、食文化の中で「おらがごっつお」があるが、これは私が 命名したものである。何故それを始めたかということ、私たちのところ には戦争遺跡や文化遺産のスタディツアーの団体が非常に多く来る。 そういった方たちは地域の郷土料理が食べたいが、食べさせてくれる 旅館やホテル、飲食店が無いことが問題になった。そこで、提供して くれる場所がないか考えている中で、市役所の栄養士の友人と話して いたところ、保健推進委員が健康のために子供たちや大人に指導して いることを知り、保健推進委員の力を借りて地域の食文化の掘り起 こしをしたところからこのプロジェクトが始まった。そこで NPO と保 健推進委員と共同で 10 地区の地域でこんな食べ物があるというもの を出してもらった。その中で高井地区から出てきたものが「ごんじゅ う」だった。しかし、ごんじゅうをまだ知らず、ストーリーを聞いた ところ、やわたんまちで神輿を担いでいる途中で食べてエネルギーを 付けてまた神輿を担ぐ。そのために肉飯だということを知った。それ に共感しておらがごっつおのレシピ集を作った。一番の目玉がごんじ ゅうになったのは 20 年前になる。2 冊目を作った際には富崎地区の 方のみで作った。布良・相浜でのおらがごっつおのレシピ集を作った。 そのようにまるごと博物館やエコミュージアムは市民を巻き込んで、 市民の力を借りながら、みんなで自分たちの財産を掘り起こして大事 にしていく。そのようなムーブメントをどう作るかを地域計画の中で 記載するのは一番大事なことだと思う。どういう風に広げていくの か、あるいは観光協会の人たちも一緒にプロジェクトに加わってもら って広げていくかなど、そういうような計画につながってほしい と思う。 |
| 菅根会長 | ●文化財の幅広さを知ってもらうため別の用語を使用するといいか もしれない。あまりこだわらずミスマッチにならないようにすればよ いのではないか。 |
| 矢尾委員 | ●命名するのは最終的には必要だが、その他の分類に何を入れるのか という議論の方が先かと思う。別荘所有者がいいのか悪いのかも含め て随時共有していく、そちらの視点からも議論が必要かと思う。 |
| 池田副会長 | ●別荘所有者は物語が面白い。別荘でなくても福原有信が館山出身だ |

| | |
|------------------------------------|---|
| <p>菅根会長</p> <p>池田</p> <p>池田副会長</p> | <p>ということなど市民は全然知らない。このことは館山市民にとってアイデンティティを育てていくものになる。館山の自慢だと思えるものは何でも掲載してもいいと思う。そのため、X JAPAN も掲載してもいいと思う。外すのは最終的に決めればいいと思う。市民が誇りを持つものなら何でも広い意味で文化遺産と捉えることはできると思う。大事なはそのものがもつストーリーだと考えている。</p> <p>●いろいろリストに挙げていくのは良いと思う。それをどのように取り扱っていくかを考えてほしい。文化遺産、安房遺産などのような言葉を使ったほうがむしろ館山らしい。</p> <p>○今日の協議会では事務局案に対して様々な意見をいただきありがとうございました。方向性については今日結論が出せるものではないため継続的にこちらも考えていく。皆さんにも随時ご意見を伺いながら将来像や基本方針、歴史文化の特性について考えていきたいと思う。</p> <p>4. その他</p> <p>●県指定文化財四面石塔シンポジウムの紹介、案内。</p> <p>5. 閉会</p> |
|------------------------------------|---|